

入選

おばさんありがとう

山口県 深川小学校 二年
増山 のどか

「だいじょうぶですか。」

車にのったおばさんが、しんぱいそうにわたしたちに話しかけてきました。びっくりして、どうしようかとなやんでいたら、

「あなたたち、15分もここでまっているでしょう。さっきね、うちのだんながさんぽしているときに見かけて、しんぱいしてたのよ。車で家までおくってあげようか。」

おばさんはとてもやさしそうでした。でも、わたしはどうしようかまよいました。だって、知らない人の車にのってはだめと、先生やかぞくから言われていたからです。

この日は、^{ながと}長門のいいやまはちまんぐうのおまつりの日で、おみこしがはちまんぐうから海の方までかつがれていきます。わたしと弟は、おみこしについて歩いていました。でも、30分ぐらい歩いたとき、きゅうにかみなりと雨がふってきました。

近くの家のかき下にひなんをして、10分くらいまっていたけれど、どんどん風と雨がひどくなってきて、ズボンがビショビショになりました。弟もかみなりがこわくて、なきました。

そんなとき、おばさんが声をかけてくれたので、すこしホッとしました。でも、わたしは、「いい。のらない。」と言いました。お母さんは近くにいたけれど、だめだと言うだろうし、もしあぶない人だったらどうしよう、と思ったからです。

するとおばさんは、すこしかなしそうに近くの家にかえって行きました。お母さんが弟をだっこして、かえってきました。しばらくして、お父さんがおむかえにきました。

わたしは車の中で、さっきのおばさんの話をしました。お父さんとお母さんは、「それでいいんだよ」と言いました。でもわたしは、きっとおばさんはすこしきずついたらんだろうな、と思いました。わたしは、わるいことをしていないのになさくなりました。

「このままでええかねえ。」

「別にいいんじゃない。なにかしてもらったわけじゃないし。」

車の中で、かぞukaiぎがはじまりました。

「のどかは、どうしたいの。」

とお母さんがきいたので、わたしは、さっきかなしくなったことを言いました。そしたら、「あとでお礼を言いに行こう」ということになりました。

夕方、クッキーをもって、お母さんとお礼を言いに行きました。おばさんは、さいしょはびっくりしていたけれど、おばさんが声をかけてくれたことがうれしかったことを話したら、うれしそうにわらっていました。

しんせつは、わたしみたいにうけとれないこともあるけれど、その気もちだけでもうれしくなります。

おばさん、ありがとう。